

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270700164	
法人名	社会福祉法人 常光会	
事業所名	グループホーム ひばり苑	
所在地	〒033-0022 青森県三沢市大字三沢字庭構4961-1	
自己評価作成日	平成30年10月15日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会	
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階	
訪問調査日	平成30年11月2日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の子どもたちとのふれあいや、他事業所との連携により「知り合い」に会う機会を設け、1人1人が「今が幸せ」と感じる事が出来るよう心がけています。医療関係機関と連携を取り、健康管理に努め情緒の安定を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ひとりひとりが「今が幸せ」と思えるよう、日々の生活の会話などから本人の幸福を意識し職員がケアに取り組んでいる。また、法人内の児童館の子どもたちと定期的にふれあう機会や地域の催し物に参加し多世代の地域住民と交流を図っている。地域の経験から防災意識が高く、法人内の避難訓練の他に町内会で行われる津波想定の避難訓練にも地域住民の一員として参加し、地域に密着した事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外 部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度末に事業所独自でスタッフ全員で理念を作っている。家族、来苑者、スタッフが見やすいホールの壁に掲示している。	年度末に理念についてスタッフ全員で話し合う機会を持ち、作成している。事業所の見えやすい所に掲示し目標共有がされている。	実際に行っている地域住民との交流や取り組みについて言語化し理念に組み込むことで、よりグループホームらしい理念になることに期待したい。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域サークルの慰問や近隣の小・中学校の行事も招待され参加。事業所内の児童館とも交流している。施設行事には地域の方に参加してもらっている。	近隣の小・中学校の行事への参加や法人内の児童館の子供達との交流の他、地域のフラダンスサークルの訪問など多世代の地域住民との交流機会がある。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の勉強会を実施した。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間想定の避難訓練を報告した際に、指摘を受け、次の避難計画に反映させている。11月に三沢市が主催するキャラバンメント養成講座にスタッフとして参加。町内会の総会に講師依頼があり12月に参加する予定。	2ヵ月に一回、定期的に運営推進会議が開催され、市役所の担当者、町内会長、児童館長、管理者、家族への出席を働きかけている。取り上げられた事案等の検討、報告が行われサービスの向上に繋げている。	会議の構成メンバーである家族の出席率が低い現状となっている。家族が気軽に参加が出来るような工夫を期待します。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者が出席した際に、情報交換・相談・助言を受けている。困難ケースの際には、都度相談・助言を受け対応している。	運営推進会議の際、市役所の担当者へ事業所の抱える困難ケースを相談し助言を受けている。また、会議以外でも相談できる体制が整っており、経過を情報共有しケアの充実に努めている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に研修を行い、拘束防止に努めている。玄関の施錠はしていない。	身体拘束に関し、年に4回研修を行い、研修資料を用いて振り返りを行っている。また、日々のケアの中での言葉がけなど、職員が自らが適切であったか振り返る事を目的にロールプレイを取り入れ、正しい理解ができるよう実施している。玄関の施錠は防犯上、夜間のみ行っているが、日中は行われていない。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に研修を行い、拘束・虐待防止に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な場面での学ぶ機会となっている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に施設の概要・料金等をパンフレットで説明。契約時には重要事項説明書を基に説明。家族や利用者の質問には十分な説明を行い了承を得ている。		
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の会話の中や、面会時の会話の中から意見を聞くようにしている。意見や要望があれば都度リーダーに報告。対応内容を口頭や職員連絡帳で周知している。	普段の会話や表情から本人の気持ちを推測している。また、家族の面会時に日々の生活状況を報告した際に、意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映させている。	
11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議後、ミーティングする機会を設け反映させている。	ミーティングの他、スタッフが意見を言いやすいように、身近にいるユニットリーダーが意見や提案を聞き、ユニットリーダーが管理者や所長にスタッフの意見を報告している。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の全体会と、念頭の懇談会等の機会をとらえ職場環境方針等の説明に努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、ケアマネの資格取得に向け講習日程に合わせ、勤務調整を行っている。事業所内での研修計画を立て、実行している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議への出席や、懇親会に参加し交流する機会を作っている。		

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み前には事前に担当ケアマネより情報を得て面談に望んでいる。面談はその都度対応している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人とは別に利用にあたっての説明をしている。特に費用に関しては減免の対象になりうるか可能な限り対応している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の利用にいたる経過及び状態変化についてアセスメントをし仮のプランを作成。医療の必要性が高くなる可能性がある場合には、家族に報告し他のサービスを利用するなどの対応をしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること、やろうとする気持ちを大切にし、出来ることはなるべくやってもらう。調理や盛り付け、洗濯たたみ・食器拭き等で関係を築いている。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に情報交換をし、家族の希望を受けるのみではなく、こちらからのお願いという形で本人の望みが叶うように働きかけている。		
20 (8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人とは、サークル慰問への参加や外部販売の利用時に会うことが出来、関係が途切れないように働きかけている。その他にも近隣の学校行事への参加や、地域の理容店が来苑し散髪を行っている。	法事や墓参り、信心する宗教の年中行事への参加継続などを家族の協力も得ながら、一人一人の生活習慣を尊重している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう周りの状況を見ながら対応している。1人になっている利用者には職員が声をかけたり、利用者同士で作業を行ったりして関係が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在該当者なし		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23 (9)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴を踏まえ、普段の会話や行動・表情から本人の意向や希望を汲み取り、沿うことが出来るよう取り組んでいる。汲み取ることが困難な場合には、家族からも話を聞いている。	入浴の時などプライベートな時間に話した言葉に気を留め、利用者の思いを汲み、意思疎通が困難な利用者は、言動や表情から思いを推測している。また、家族からも聞き取りを行い、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用申し込み時、担当ケアマネに照会しアセスメントを行い、入所時に家族に再度聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランを基に、毎日各自利用者別に記録し把握に努めている。		
26 (10)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から本人や家族の声を聞く姿勢を持ち観察や記録に努めている。本人や家族からの意見を取り入れ計画書を作成。面会になかなか来れない家族の為にも月1回のモニタリングを送付している。	月末にスタッフ全員が記入するモニタリングシートを集約し、普段の関わりの中から把握した本人の思いと、家族から頂いた意見を取り入れ、計画作成担当者が作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の朝夕に引継ぎの時間を持ち、情報の共有に努めている。利用者の個別の記録を残し、モニタリングとし合わせを介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイ・特養相談員との情報の共有が図られ、慰問見学時の移動等の見守りや病院受診時の配車の手配等臨機応変な対応が可能となっている。医療に関しては訪問看護と連携し体調管理に努めている。		

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイサービスでの慰問見学や外部販売での買い物等で地域の人と交流をしている。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の身体的、精神的症状に変化があった際には、訪問看護への相談の他にも、かかりつけ医と電話相談・受診できる関係を築いている。本人の状態や今後の治療方針、看取り等の個別の状態に対応する為、本人や家族の意向を基に調整を図っている。	病状が安定している方に対し、往診可能な提携医療機関の提案はするが、基本的には本人及び家族が希望する医療機関の利用を支援している。	
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日情報交換シートを訪看へ提出。気になる点がある時には都度報告し指示を受け対応している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換シートを活用し共有化を図っている。定期的に家族と連絡を取ったり、病室を訪れたりし本人の状況把握に努めている。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる	重度化の指針を説明。本人の状態変化にあわせて家族と話し合いを持ち、今後について定期的な情報共有に努めている。看取りを希望する場合にはかかりつけ医とも調整を図っている。	入居時に本人の状態変化に合わせた支援の仕方について家族へ説明している。看取りの際は、家族、スタッフ、訪問看護、かかりつけ医と連携しケアに取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応を苑内研修している。応急手当の習得については、講習会の日程等を提示し参加を促し、個々のスキルアップを図ることが出来るよう努めている。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特養との連携を図り、避難マニュアルの内容や非常時の備品の確認を行っている。年2回の避難訓練の他にも地震想定の訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加している。	法人内で避難マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施し、避難経路、災害時の持ち出し備品や備蓄について全スタッフが把握している。また、町内会で行われる津波想定の避難訓練に地域住民の一員として職員が参加している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の発言や行動を否定しない対応を心がけ、本人の要望を感じ取ることが出来るよう記録に残し、今後の対応に活かしている。排泄時の見守りや居室訪問時の戸の開閉の際の声掛けには特に羞恥心に配慮している。	利用者一人ひとりの思いを確認しながら、傷つけないよう配慮し、目立たず、さりげない言葉かけや対応を行っている。記録に残す事で全職員が共有しひとりひとりのケアに活かすよう努めている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプランの情報を基に本人が起こす行動や発言を促し、行動(介助)する前にどうしたいのかを確認してから行動(介助)するように心がけている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる時は、散歩や洗濯たたみ等、本人がやりなれた事を利用者のペースを大切にしながら実施するよう努力している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回のカットボラや家族の協力を得て馴染みの美容室を利用。行事参加や外出時には好みの洋服を着て楽しんでいる。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の際見守りはするものの、食材切りをお任せしたり、一緒に味見を行っている。食事の際には本人のペースに合わせゆっくりと落ち着いて食事ができるよう支援している。	事業所の畠で獲れた野菜を献立に取り入れ、利用者に味見をしてもらい食事への関心を持って頂けるよう支援している。また、テーブルを拭いたり、食材を切る事ができる利用者と一緒に準備や片付けをしている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	症状の進行により摂取量が少なくなってきた際には食事の形態の検討や、家族に報告し意向を確認の上、主治医に相談している。水分摂取が困難な時には好みの味の物を提供し水分確保に努めている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者の状態に応じ見守りをし、自分でできる事を行った後に不十分なところがあれば補っています。		

自己 外 部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43 (16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄が出来るよう必要に応じ声掛けをしている。動作の失敗や後始末の見守り・声掛けをし、安全な環境でトイレが使用できるよう配慮している。	タブレットを活用し個々の排泄パターンの把握に努め、日中は誘導しトイレで排泄できるよう支援している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	排泄チェック表を活用し、水分摂取の促しや腹部マッサージの促しをしている。看護師や主治医とも相談し最適な内服薬の調整を図り、便秘改善に努めている。		
45 (17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	午前・午後という大きな括りはあるけれども、入りたい時間等、希望に合わせ対応。無理強いはしない。気の合う方々と一緒に入ったり汗が引けるまで脱衣所でゆっくり過ごしてもらうなど個々の好みに応じた対応をしている。最低でも週2回は入浴できるよう調整している。	可能な限り、本人の希望する時間帯やその時の気分を考慮し、利用者の状態と好みに応じたケアの提供を心がけている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や気分を考慮し、居室での休養を促している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し、毎食時に手渡しや服薬の介助、飲み込みまでの確認を行っている。薬が変更になった場合には、訪看に報告し留意点等指示を受け、状態を確認し記録している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて、調理や盛り付け、食器拭きや洗濯たたみ等の作業があり、各自が出来ることを行って、職員の「ありがとう」の声かけで終えるコミュニケーションをとっている。		
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日は外気浴や散歩を行っている。行事では春の花見ドライブに始まり、紅葉ドライブを企画し外出している。家族の協力も得て外出。スタッフが付添い週1回の外部販売にも出かけている。	外気浴や散歩を提案し、日常的に戸外に外出する機会を設けている。本人の希望があれば、家族の協力を得てドライブや季節ごとに外出支援を行っている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「お金を持ってみたい」と希望される方は殆どいない。お金を使うと家族に申し訳ないと思っている様子。外部販売利用時に「預かっている」と伝えると笑顔が見られ買い物を楽しんでいる様子は見られる。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の作成、送付をしている。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しや外部の人の動きなど利用者にとって不快や混乱を招くような刺激がある時にはカーテンで遮っている。掃除は毎日行い、床暖房やエアコンを使用し温度調整をしている。季節に合わせたディスプレイをしている。	午前と午後の日の射し方により温度変化が生じるため、床暖房を東西切り替え可能にし、空調管理を適切に行い、居心地よく過ごせるように配慮している。季節の装飾も華美になりすぎず、さりげなく季節を感じられるよう工夫している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置関係を固定しているが、利用者個々の日中の過ごし方で座る位置を調整したり、食堂以外にもソファーやテレビを設置し、スペースを設けている。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の心身機能を踏まえ、家具の配置に配慮し転倒防止に努めている。家具や写真、仏壇等持ち込むことで安心した生活が送れるよう支援している。	箪笥やソファの他、信心する宗教の神棚や仏壇の持ち込みがあり、本人が慣れ親しんだ物に囲まれ居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかるこ」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来ること」「わかること」をアセスメントし生活動作が自然に出来るような環境づくり(ポータブルの位置や手摺の設置等)をし自分に自信が持てるような生活の支援を行っている。		